

平成 23 年 2 月 10 日 木曜日

「九重“夢”大吊橋の実現！その発想を企業経営に活かす！」

講師 九重町長 坂本 和昭 氏



九重町は、町土の約 2 分の 1 が国立公園・国定公園などの自然豊かな風土です。川端康成作「波千鳥」に「ほんたうに美しい夢の國がここに浮かんだような高原」と表されたことより、夢をテーマに観光振興計画の支柱としての九重“夢”大吊橋を成功させ、今現在も「これから追いつける“夢”…日本一の田舎」をテーマに町おこしを行っています。

その先頭に立って町の振興にいそしむ坂本和昭町長は、平成 4 年に町長へ当選後、平成 6 年から観光振興計画として「九重森林公園スキー場」「九重“夢”大吊橋」を実現させてきました。

大事業を行なうことは平坦な道のりではなかったようです。スキー場の建設は、国立公園内に建設することから、当時の環境庁の許可を得るため何度も環境庁に足を運んだが、「失敗」の二文字に阻まれなかなか許可が下りない状況が続きました。ある時、当時の環境庁長官宮下創平氏が坂本町長の熱意に対し「なんとかしてあげられ

ないか」と職員に声をかけたことにより、「スキー場ではなく森林公園」「リフトではなく索道」へと名前を変え、九重森林公園スキー場は実現に至ったとのこと。

「できない理由ではなくてできる方法を考える」ことも行政の仕事であると坂本町長は講演しました。

九重“夢”大吊橋は、滞在型の観光客を確保するために日本の滝 100 選「振動の滝」をメインとした四季折々の景観を観光の目玉として計画されました。当然、住民や議会に不安を抱く人がいましたが、135 の集落で行なわれるタウンミーティングに町長、副町長などが説明に回り、不安を解消していったとのこと。説明をするものが自信が無くては、聞いている人を安心させることができないとの思いから、入込客や宿泊客から出した年間の見込客、各地への視察を踏まえ絶対の自信を持っていたとのこと。



坂本町長は、大事業を行う際に「天の時、地の利、人の和」が揃うことが大切であると講演しました。九重“夢”大吊橋の建設の時は、国立公園等への年間入込客 400 万人の観光客が通ること（地の利）、玖珠町との合併を中止したことで県から建設費が出ないことに住民の意思が一致した県へ抗議（人の和）など、それら（天の時）が揃ったことにより実現に至ったそうです。

大吊橋の建設には、総事業費約 20 億円がかかりそのうち約 17 億円が借入金で賄われ、その借入金のうち約 7 億円が上記に述べた県から出せないと言われた過疎債

の予定でした。その理由の合併中止の最終的な決断は町民に委ねられました。町長が辞任し選挙により町民の意思を問う形をとったのです。結果、対立候補も出ず再選、町民は合併中止に賛成という意思を示しました。しかし、合併を推進している県が過疎債を出さないというペナルティのようなものを与えてきました。それに対し町民が一致団結し県へ抗議をしたというわけです。その後、地域再生債と形を変え県から借りた残りの約7億円は予定より早く開通から2年ですべて返済したそうです。それは、九重“夢”大吊橋が予想を上回る成功をおさめたからです。

九重“夢”大吊橋は、平成18年10月30日開通からわずか24日で年間目標来場者数30万人を達成し平成22年11月には来場者数600万人を達成しています。開通がちょうど紅葉シーズンであったこと、入場料が500円(小学生以下200円)と安価でありスリルを味わえること、周辺の温泉地、福岡から約1時間などの交通アクセスの良さなどいくつかの要因があったそうです。それとともに物産直売所も繁盛しています。物産直売所に出されている商品は、九重町産品もしくは加工など九重町で何か手が加えられているものだそうです。こうしてすべて町おこしへつながっていく仕組みを作っているとのことでした。

こうして成功した九重“夢”大吊橋は、全国的なPRとなり県内外へも大きな波及効果を与えています。九重町でも“夢”をテーマに“夢”茶、地酒(九重“夢”大吊橋)、九重“夢”バーガー、九重“夢”ポーク、天然水などの商品を開発しています。また、児童医療費助成や子宮頸がん予防ワクチン接種全額助成など少子化対策、火災報知機の配布、農業大学へ進学を全額助成、ブロードバンド整備など町での暮らしを充実させる行政をおこなっています。

九重町は、現在、お金の世界から命の世界へと変わっていく人の心をとらえるため、町が駅を買い取り茅葺の駅(豊後中村駅)へ改装するなど「日本一の田舎づくり」をテーマに町づくりをすすめているそうです。同時に、春の黒(野焼)夏の青(山)秋の赤(紅葉)冬の白(雪景色)と多くの自然に取り囲まれる九重町は、九州ふるさと自然学校を開校し「トキのすめる田んぼづくり」プログラムや中国との交流を行い、トキのすめる里づくりを目指しているそうです。

事業を行う際のきっかけや発想はそれぞれあるようです。しかし、それを決定するのは簡単なことではありません。坂本町長は、「天の時、地の利、人の和」が揃うことが大切だと講演していました。それらを揃えることは自らが動き裏付けのある絶対の自信をもって人を動かすことが必要であるということです。